

中井商店分会

要求実現のため闘う

2009年4月に大阪本社11名で全港湾大阪支部に加入し、翌月5月に鈴鹿営業所の20名が加入しました。その後、狭山営業所（埼玉）と仙台営業所から浜松営業所と合わせ約45名が加入しました。

2010年8月に夏季一時金未払いで労働審判開始、同年11月に会社が10万円を支払う事で和解しました。

2010年2月、全港湾大阪支部を紹介し、誘った分会員本人が会社は辞めないが、組合を脱退しました。会社はこれを機に組合をなくそうと考えて、まず、現場作業員に定時で仕事を終わらせ、一切残業をさせなくなりました。職場集会の中で分会員から「1ヶ月くらいは我慢できるがそれ以上は無理、やっていけない」との意見が出て、分会は団体交渉において元に戻すよう、交渉を重ねましたが、会社は仕事も外注に出して、仕事も減らしてきました。会社はさらに運

転手にも残業カットを行ってきました。結果、脱落者が続き、会社を辞めた者、組合だけ辞めた者、定年退職者など、約2年間で大阪で9名、鈴鹿は13名、浜松1名、狭山1名が脱退し、大阪2名、鈴鹿7名になりました。

当時の給料体系は日給月給制であり、残業しないと生活に必要とする給料にはならなかったのです。現在は月給制となりました。



2011年3月、東日本大震災により、死者や行方不明者こそは出なかったが、仙台営業所が被災、事務所も職場も流され、働く事すら

できず分会員12名は退職を余儀なくされ、解散となりました。

2013年5月大阪本社で、やはり会社のやり方には納得できないと1名が組合に復帰しました。

2018年1月に約7年働いている日雇いの2名に対し、組合加入を働きかけ、山田副委員長に相談して2名に会っていただき、正社員化の方向で行くから大丈夫だと力強い言葉をもらいました。春闘交渉の時に待機し、最後に部屋に入ってもらい、2名の加入書を提出し、会社に正社員化をもとめました。翌週、交渉を行い、2名の正社員登録協定を、8月28日付けで結びました。

現在、中井商店分会は大阪本社と鈴鹿営業所で頑張ってます。大阪、鈴鹿とも年齢も高く、定年者も増えてくるため、定年延長を要求していますが、会社は認めないため、「定年60歳、再雇用65歳まで」を実現すべく、分会へのさらなる補充と、組織強化、拡大を各支店・営業所に拡げて、今年も頑張っていきたいと思います。

分会長 竹山 保彦

新年おめでとうございます

新年おめでとうございます

新年おめでとうございます

リクサストラスト分会

全港湾の一員として

昨年10月1日より、リクサストラスト分会として新たに旗揚げさせていただきました。

私自身の主な業務は倉庫内作業になります。入社して8年余になります。日々少人数での長時間労働、作業量の増加に伴う休日出勤、高齢化によるベテラン社員の退職など労働環境は悪化して行くばかりです。

個人でも賃上げや人員補充など労働環境の改善を訴えてきましたが、全く取り合ってもらえませんでした。私自身も年齢を重ねて行く中、将来への不安が常に頭をよぎっていました。

そんな中ある時、会社で全港湾

と書かれた赤い旗が掲げられました。そこにはグループの親会社である（リクサス）の名前が入っていました。その時初めて全港湾と言う労働組合を知りました。そしてリクサスの分会長に話を聞いていただいた際に「よしよかった、もう心配するな」と言ってくれました。

程なくして大阪支部の方が会社に来られ、その後も何度となく様子を見にきてくれたり、何度も話を聞いてくださって、さまざまな形で皆様にお世話になり、現在に至っております。

分会として、まだ始まったばかりですが、今後は皆様と共に、き



ちゃんと会社と向き合って、全港湾の一員として頑張っていこうと思っています。まだまだ身近にも私の様に不安や悩みを持っている人や労働組合の存在を知らない人もたくさんおられるかと思いますが、今後は、そういった人に声をかけて、同じ思いの仲間を増やして少しでも全港湾という組織の力になれるように努力して参ります。

分会長 廣瀬 尚巳

大阪サンエー分会

分会の意識強化で組織拡大！

現在18名の分会員ですが、本当の意味での組織として真剣に取り組む、会社との労使関係と信頼関係を持てたのは最近の事です。

当初の考え方は会社を潰してやるうなどと、会社との労使関係どころか、まともに取り合ってもらえないような関係で、会社からは嫌がらせや差別配車、残業減らしなど兵糧攻めが当たり前の日々でした。まさに回りは敵ばかりで、同僚にも変な目で見られるような雰囲気の中、仕事をしていた気がします。

そんなある日、分会危機の壁にぶち当たり、団体交渉拒否の事態に持ち込まれました。組合の権利である団体交渉ができなくなった時、分会が大きく姿勢の方向転換

をしたことを思い出します。

それからが本当の意味での労働組合として機能しはじめ、組織力や労使関係、信頼関係の大切さを知るきっかけとなったのだと思います。



現在は、良好な労使関係と信頼関係のバランスはよく、互いに共存共栄しています。これまでの異常な労働時間や働き方を改善し、

安定した仕事と安定した生活の中で生きていく重要性を労働組合で教えていただきました。

少しずつ安定した収入と協定書に基づく基本的ルールの取り組みや生活保障の充実、会社と共に労働条件の向上を図る事により、社内での取り巻く環境は一変しているのを今では実感しています。

分会に少しずつ、力がつき組織力を身にまとったとき、必然と分会員は増えていきました。社内でオルグしていた時は、誰も見向きもせず拒絶し恐れてさえいた人たちですが、今ではそんな人たちが興味津々のようです。

分会強化、拡大は自分たちの行動の成果だと思っています。会社の中には、労働組合と言うものを誤解している社員もたくさんいますが、あまり意識せず肩ひじ張らずに一生懸命努力して楽しく頑張っていきたいと思っています。

分会長 南野 一樹

新年おめでとうございます

新年おめでとうございます

新年おめでとうございます

協和化工分会

永遠の仲間と結成へ

会社には当時、一時的なパワハラとは違う「差別」と「偏見」という理不尽な事が繰り返されていました。

役員から“白”と言われている人は何をしても過大評価され、役員から“黒”と言われている人は何をしても批判されてしまう状況が続いていました。結果、何の努力もせず、ひたすら役員から白と言われる事が正しい選択とされ、管理職と呼ばれる白の使者が黒を批判する。そんな悲惨な状況が続いていました。僕は白とされていましたが、そんな状態をずっと異常だと感じて、他の管理職の事が理解できなくて苦しみました。

会社には秘密で、話の合う仲間と年に数回飲み会をして愚痴を言い合っていました。今思えば協和化工分会の前身ともいえる親睦会

「M会」の誕生でした。具体的な救済策も無く、そんな事でしか自分を守れなかったんだと思います。そんな頃、近隣の光南鉄工分会に組合旗があがっているのを見て、全港湾に相談に行きました。



協和化工分会の結成に向けて3ヶ月。分会長は分会の前身であるM会の発起人である僕がやるべきだと、他のメンバーから背中を押されて、僕が選任されました。

支部執行部の方と会社へ結成通知する時は、もしかしたら結成で

きずに潰されるかもしれない。警察が来るかもなどと、想像だけが膨らみ、執行委員の方もいつもとは違い、すごく怖かったのを覚えています。

分会は9名でスタートしました。結成されて3ヶ月、まだまだ勉強の毎日です。分会員の意見も多岐にわたりますが、そのバランスを取るのが大変だなと感じています。私は、分会長としてメンバーの意思を尊重し、1人でも納得できない時は、その1人を説得し、納得してもらうまでは強引に話は進めません。誰ひとり置いていけない永遠の仲間であると思っています。会社と闘う時にも、分会を拡大する時にも、遠回りな様で1番最善なんだと自分自身に言い聞かせてます。

吉本・横山両執行委員にも色々教えてもらいながら、人間力も高めていけたらと思っています。

本年もよろしく願いします。

分会長 松本 稔